

部会活動

研修部—この5年間—

研修部 林 伴子

研修部は近畿病院図書室協議会創設以来、研修会開催を刷ることによって会員への教育啓蒙活動を担ってきた。25周年を期に、1994年からの5年を振り返ってみて報告する。

1. 研修会のテーマ

図書室をとりまく状況で一番大きく変わってきたのはインターネットをはじめとした、情報通信分野であろう。

CD-ROMは、もはや当り前のものとなり、電子ジャーナルやウェブでの情報検索など、担当者にとっても新しい技術が必要不可欠な時代が急速にやってきた。そのため、研修会のテーマも情報関連のものを取り上げる機会が増え、約2割を占めることになった。

図書業務に関しては、実務面を重視した新任向け研修を少人数を対象とした勉強会で行うこととしていたが、参加者数が増加し、最近2年は、年度初めの研修会で取り上げた。

他の回ではレファレンス・サービスをテーマにするなど、専門図書館員としての知識の修得に重点をおいた研修会を開催した。特に職員数が多い割には利用の少ない、看護職への利用促進を図るため、利用指導やサービスの方法など、徐々に取り組んでいる。その反面、従来よりシリーズとして行ってきた、医学の基礎知識の講義回数は減少した。

事例研究発表会は、従前より行ってきた形式を踏襲している。新任担当者の発表の場と会の事業活動の広報の場としての役割など活性化が必要である。

2. ワークショップ

1997年から99年まで、一泊二日の研修会を、毎夏、ワークショップとして行った。図書室業務の“初めの第一歩”から、専門図書館員としての教育、知識の修得など幅広く、そして、実務面よりは専門性を目指したテーマのもとにグループディスカッション・発表を行い、さらに議論を深めるなど、有意義な時間を持つことができた。こうした機会は、プレゼンテーションの訓練の場としての一面も見逃せない。ただ、宿泊を伴う研修会は、参加者にとって制約を伴う場合も多く、参加者数が予測できにくい。今後の開催にあたっては検討を重ねる必要がある。

3. 勉強会

1990年度より新任向け研修として、勉強会の開催をおこなってきたが、上述したように参加者が増加し、研修会として開催するようになった。しかし、多人数ではどうしても細かな疑問・質問に応じにくく、新任担当者には理解しにくいことも多いため、2000年度より再開することにした。

4. おわりに

この5年間は図書室担当者にとって、環境に急激な変化をもたらした時期といえる。研修会への参加も、医療をとりまく状況の悪化に伴い、制約を受けるケースが増えてきている。しかし、EBMをはじめとして、図書館員が専門性を発揮できる時代が近づいている。その時に備えて、知識を修得していくことは不可欠である。今後も、担当者にとって有意義な研修会を目指して行きたい。